

◇◇ 近畿病院図書室協議会 ◇◇

## 平成17年度 第32回 総会 報告

日時：2006年3月24日（金）

13：00～16：00

会場：京都テルサ

### 総会プログラム

#### 開会

1 会長挨拶（業務のため出席できず）

2 議長・副議長・書記選出

議長：前澤好広（長野赤十字病院）

副議長：重富久代（京都市立病院）

書記：木曾亜衣子（耳原総合病院）

3 議案審議

1) 平成17年度活動報告

2) 平成17年度会計・監査報告

3) 平成18年度活動方針

4) 平成18年度事業計画

5) 平成18年度予算

6) 役員改選

7) 平成18年度会長・事務局長承認

（議案4）～7）は審議の結果承認された）

4 近畿病院図書室協議会への入会規約の

内規変更の提案（審議の結果承認された）

#### 閉会

総会員数：126機関（うち議決権124機関）

出席：30機関

委任状：58機関

合計：88機関（会員の2/3以上の数を  
みたし総会成立）

### 議案Ⅰ．平成17年度活動報告

はじめに

平成17年度は、総合目録の Web 版稼働を目

指した目録編集事業を中心に活動を行った。幹事会は、新規に1名を加えた8名の幹事で会運営にあたった。数としては昨年より減少し、役割分担に多少偏りが生じた。今年度は従来事業の継続とネットワークのあり方を模索した一年といえよう。

継続事業のうち教育研修活動では、近畿を離れた長野でのサマーセミナーの開催など定例の研修会を2回、新任むけの勉強会を1回行った。

その他、近畿地区医学図書館協議会、日本薬学図書館近畿・中国・四国地区協議会との協同によるシンポジウムを開催し、厚生労働省研究費補助金医療技術評価総合研究事業「患者/家族のための良質な保健医療情報の評価・統合・提供方法に関する調査研究班」主催の「市民への健康情報提供サービス調査研究会議」の開催を行った。

また、公開シンポジウム「これからの医療情報を考える！」の案内を受け、会員へ広報した結果、多数の参加があった。

第110回研修会は例年のごとく、2006年3月24日に第32回総会とともに「事例・研究報告会」として開催する。

出版広報活動では、会誌「病院図書館」第25巻を定期刊行した。連載や報告記事のほか、各号ともユニークな特集を組んだ。発行の遅れが続いていたが、1号2号を合併号として発行することで多少は遅れを取り戻しつつある。ただし、年度内発行は3号までで、4号発行は4月になる予定である。

協議会ホームページについてはまだまだ十分な活用ができていないと言いが、研修会やシンポジウム、フォーラムの開催案内、また、事務局よりのお知らせなど、随時掲載していく予定である。昨今病院図書館もインターネット

環境に恵まれてきた。次年度はホームページに携わる人員を追加確保できたので、広報活動のツールとしてさらなる有効利用を目指したい。

医学文献情報活動では、「近畿病院図書室協議会医学雑誌総合目録 CD-ROM 版2004」の発行に引き続き、Web 版の編集作業を開始した。4 月よりの正式稼働を目指して作業中である。

文献の相互利用にあたっての基本マニュアルは当協議会独自に作成していないが、今年度、日本医学図書館協会より「JMLA 相互利用マニュアル第5版2005年」が発行されたので、基本ルールを徹底することを目的に会員に配布し、当協議会におけるマニュアルとしての役割も果たすことにした。

今年度の統計調査は通常調査の年に当たっていた。集計した報告書は会員へ配布する。

対外交流では、日本医学図書館協会とは総会への出席、会員の文献相互貸借など従来通り交流を進めた。その地区会である近畿地区医学図書館協議会とは地区例会へのオブザーバー出席、シンポジウムの共催などで親密に交流している。また、病院図書室研究会や各地区の病院図書館ネットワークとは、それぞれ会誌交換や寄稿などの交流があった。

また、ライフサイエンス系図書館団体連絡会(仮称)が開催され、当協議会よりも幹事2名を派遣した。引き続いての事業として、健康医療情報サイトなどの活動を行うことになり、協力員の派遣要請があったので、これを了承し、1名派遣することになっている。

今年度は初の試みとして研究助成金を設定し、2題の応募があった。研究成果については事例・研究報告会で発表する予定である。

### I-1-1 研修部

#### [第20回勉強会]

日時：2005年6月22日 13:30~16:00

場所：住友病院

会費：500円

プログラム：

1. 図書館相互貸借業務 (ILL) のルールとマナー
2. 役立つ担当者と思われるコツ
3. 図書館見学

講師：研修部/事務局

参加者：17名(研修部3名を含む)

#### [第108回研修会]

日時：2005年8月26日~27日

場所：長野赤十字病院 基幹災害センター研修ホール

テーマ：いまこそ病院図書館連携を強固に

会費：会員 2日参加 2,000円

1日参加 1,000円

非会員 2日参加 3,000円

1日参加 1,500円

プログラム：

#### [第一日目]

1. 東海目録 Web 版 (TOMcat) の運営について

講師：坪内政義(愛知医科大学医学情報センター)

2. 近畿病院図書室協議会会員所蔵雑誌目録 Web 版の概要

講師：大西幸雄(株式会社サンメディアネットワーク事業部)

3. 報告

①NACISIS-WebUIP 病院図書館ユーザーの現状報告

講師：中村雅子(大阪府立母子保健総合医療センター)

②長野県内の病院図書室連携について

講師：前澤好広(長野赤十字病院)

4. スモールグループディスカッション  
テーマ：

1) 患者さんへの医療情報の提供

2) 文献入手環境をどう整備していくのか

3) 臨床研修医制度と病院図書室

(テーマを5題予定していたが3題に絞ってディスカッションを行った)

[第二日目]

1. [医学の基礎知識] 消化器疾患について  
講師：松田至晃（長野赤十字病院 第二消化器科部長）
2. 医薬品情報管理業務をサポートする電子メディア商品  
講師：川畑寿弘（株式会社じほう 大阪販売部）
3. [医学の基礎知識] ペイン一般について  
講師：萩原正洋（長野赤十字病院 第一麻酔科部長）
4. PubMed 検索の基礎と実践  
講師：小田中徹也（国立病院機構京都医療センター）
5. 長野赤十字病院図書室見学（希望者のみ）

参加者：延べ28名（うち非会員16名）

**[平成17年度近畿地区医学図書館協議会（等）シンポジウム]**

日時：2005年11月17日 10：00～16：30

場所：大阪大学生命科学分館 AV ホール

テーマ：利用者教育におけるプレゼンテーション  
の実際－教材の作り方と指導の技術－  
当協議会会員の参加者：22名

**[第109回研修会]**

日時：2005年12月8日 10：30～17：00

場所：独立行政法人科学技術振興機構（JST）  
情報提供部 西日本支所

会費：会員1,000円、非会員1,500円

プログラム：

1. [医療の基礎知識]病院における医療ソーシャルワーク業務の実際  
講師：川田美也子（大阪府立成人病センター 患者総合相談室）
2. 近畿病院図書館協議会会員所蔵雑誌目録Web版の概要  
講師：大西幸雄（株式会社サンメディア ネットワーク事業部）
3. 「JMLA 相互利用マニュアル第5版2005年」改訂点と「文献取り寄せ業務」の見直しについて  
講師：中村雅子（大阪府立母子保健総合

医療センター）

4. JST JDream 新サービスについて

講師：山口祐穂（科学技術振興機構情報提供部新サービス開発課）

参加者：21名（会員20名、非会員1名）

**[第110回研修会：事例・研究報告会]**

日時：2006年3月24日 10：00～12：00

場所：京都テルサ

会費：500円

プログラム：

1. 患者図書館/患者情報室を目指して－公開シンポジウム「これからの医療情報を考える！」開催報告－  
演者：杉本節子（武庫川女子大学）  
共同演者：中村雅子、中馬良子
2. 病院図書館の業務分析（第一報）  
演者：中村友紀（星ヶ丘厚生年金病院）  
共同演者：寺澤裕子、山室真知子
3. 長野県でのネットワーク活動について  
演者：前澤好広（長野赤十字病院）  
共同演者：中村雅子、佐々木絹江、小林紀子
4. 精神医学・心理学系専門図書館システム新規構築について－情報入手機能とシステムの検討－  
演者：有園博子（兵庫県こころのケアセンター）  
共同演者：田中友恵
5. 図書館業務でのより効率のよいメール管理－迷惑メール対策を中心に－  
演者：中村雅子（大阪府立母子保健総合医療センター）

参加者：40名（会員34名、非会員6名）

今年度は3回の研修会と1回の勉強会、並びに近畿地区医学図書館協議会等シンポジウムを行った。テーマとしては編集作業も大詰めとなった総合目録Web版の正式稼働を前にして、ネットワークと文献の相互利用・入手方法を主に取り上げた。

文献相互貸借では当協議会独自のマニュアルを作成していないため、2005年に発行となった日本医学図書館協会の「JMLA 相互利用マニュアル第5版2005年」を会員に配布し、第109回研修会ではテキストとして利用した。また、総合目録 Web 版の概要説明を第108回、第109回の2回の研修会で行った。

第20回勉強会は例年通り、初心者向けのものとして、図書館業務のうち相互貸借業務の基本を中心としたプログラムであった。

第108回研修会ではネットワークについて考えようと「今こそ病院図書館連携を強固に」をメインテーマにした。会場を、長野県では最初に会員となった長野赤十字病院におき、恒例のサマーセミナーとして、地域の特性を生かした活動やネットワーク全体での協力活動—特に目録と文献の流通を中心としたプログラムを企画した。第一日目のワークショップでは病院図書館員だけでなく大学や関連業界からの参加者からの発言など多彩な内容となった。

ただ、開催地が当協議会の活動基盤である近畿地区から遠隔にあり、また事前の広報活動も十分に行き渡らなかつたためか、近畿地区からの参加は少なかった。しかし、今回の研修会を契機に、長野県でのネットワーク活動が活性化したのは喜ばしい限りである（成果については第110回研修会で報告した）。

第二日目には「医学の基礎知識」として講義を2題、医薬品情報に関するもの、PubMed の実践など、業務に直結する内容であった。

第109回研修会は、前述したように「JMLA 相互利用マニュアル第5版2005年」をテキストに相互貸借業務についての基本を学び直した。「医療の基礎知識」としてMSWを取り上げた。

平成17年度近畿地区医学図書館協議会等シンポジウムには、当協議会からも実行委員を派遣し、大阪大学生命科学分館で開催された。

その他、公開シンポジウム「これからの医療情報を考える！」の案内をいただき、会員へ広報した結果、多数の参加があったことを付記し

ておく。

全体を通して見ると、今年度は通常の研修会での参加者は会場の関係もあり、それほど多くはなかつたが、シンポジウムなどへの参加は今まで以上にあった。また、初めての参加者も多く、各施設での担当者交代（次世代へ移行）が進んだ印象を受けた。

研修会へ参加するかどうかは企画次第で決める場合があるので、来年度以降は早めの日程設定、さらに先を見越した企画など、素早い対応が今以上に必要になってくると思われる。また、会場に関しては、病院見学を兼ねたものが参加者にとっては有意義であるが、病院での丸一日の会場確保が困難になってきた。今後の検討課題と考える。

今年度は当初山室幹事が研修部長をつとめることになっていたが、幹事の数が少なく、山室幹事が目録作成にも携わっていたため両立が難しく、途中から林事務局長が部長代行をつとめた。研修部員としては大阪府立母子保健総合医療センターの中村雅子氏、済生会兵庫県病院の田中文子氏、宇治徳洲会病院の神田智香子氏、済生会泉尾病院の永井保子氏、阪和記念病院の亀井真由美氏の協力を得た。

新たな企画には新鮮な感覚が必要となることも多い。今の研修部員ではまだまだ手が足りないのが現状である。次年度にはいろいろな方法を検討し、よりよい研修活動を行い、協議会全体としての資質向上を目指していきたいが、そのためにも会員の研修部活動への参加を切に望む。

## I-1-2 会誌編集部

### 1. 活動報告

会誌24巻4号および25巻1・2号、3号を発行。  
配布部数：229部（会員128、講読会員75、交換・寄贈26）

印刷部数：各号300部。

（1）会誌内容概略および発行日  
24巻（2004年）

4号 (発行 2005年 6月 65頁)

特集1 : 図書館プロジェクトX

劇的な納期改善—わが社のプロジェクトX—  
装幀革命

図書館とフィルムルックス

当院図書室における課題

特集2 : 研修会講演 著作権と病院図書館

著作権と病院図書館

病院図書館と著作権—最近の話題—

特集3 : ワークショップ

グループ1 機能評価を評価する

グループ2 著作権とILL①

グループ3 著作権とILL②

グループ4 オンラインジャーナルの利用  
方法

グループ5 仮想患者図書館

特集4 : シンポジウム基調講演 (抄録)

近畿大学中央図書館 利用者サービス・利  
用者教育の取り組み

住友病院図書室における利用者教育—新卒  
研修医オリエンテーションを中心に—

京都大学医学図書館の情報リテラシー教育  
効果ある利用者教育を目指して—関西医科  
大学での取り組み—

25巻 (2005年)

1・2号 (発行 2005年 9月 77頁、および別  
冊会員名簿43頁)

特集1 : 蔵書構築

大学医学図書館における選書の一例

病院図書室における蔵書管理

所蔵雑誌の評価

臨床医がすすめる図書館資料

—外科学基本書—

—代謝・内分泌学—

—お薦めの一冊—

—わが国の医療を考えるこの1冊—

特集2 : 総会・事例報告会 (第107回研修会)

星ヶ丘厚生年金病院図書室の業務分析

当院の図書館管理システムについて

病院図書室の役割 当院図書室の変遷から

個人情報保護法と医療機関

3号 (発行2006年 1月 59頁)

特集 : 図書館ネットワーク

病院図書室研究会

日本看護図書館協会の組織検討—役員等  
の輪番制導入を中心に—

近畿病院図書室協議会の現状と課題

図書館ネットワーク・各団体紹介

日本医学図書館協会

病院図書室研究会

日本薬学図書館協議会

日本看護図書館協会

日赤図書室協議会

北海道病院ライブラリー研究会

新潟県病院図書室研究会

福島県医療機関図書室協議会

栃木県医療情報ネットワーク協議会

埼玉医療関連情報ネットワーク協議会

静岡県医療機関図書室連絡会

東海地区医学図書館協議会

中国四国九州医学図書室ネットワーク

島根県医療関係機関等図書館(室)懇談会

沖縄メディカルライブラリー研究会

(2) シリーズ掲載

「いますぐ役立つホームページ」

⑩明治製菓株式会社 (Vol.25 No.1・2)

「電子資料解題」

② PubMed 1 (Vol.24 No.4)

③ PubMed 2 (Vol.25 No.3)

「What's EBM?」

⑯ EBM から診療ガイドラインへ(その2)  
(Vol.24 No.4)

⑰ 「情報」とは何か? : まとめて代えて  
(Vol.25 No.1・2)

番外編【EBMとライブラリアン】—“What's  
EBM?” 連載を終えて、中山健夫先生に聞  
く— (Vol.25 No.1・2)

「ちょっとこぼれ話」

XI (Vol.24 No.4)

XII (Vol.25 No.1・2)

XIII (Vol.25 No.3)

(3) 掲載広告各社

サンメディア

科学技術振興機構

ユサコ

医学中央雑誌刊行会

ベルブック

丸善

ナカバヤシ

南江堂

丸善 e-プロダクツ部

(4) 編集会議

第1回 2005年5月14日 茨木

第2回 2005年6月26日 茨木

第3回 2005年9月3日 茨木

第4回 2006年1月14日 茨木

2. 今年度総括

今年度は、会誌発行の大幅な遅れはやや改善されたが、まだ発行ペースを取り戻すことはできなかった。今後のスケジュールとして、25巻4号は3月中の発行は厳しく4月になる。26巻1号は3月末日が原稿締切日となっており、5月中の発行をめざす。2号は3月末に原稿依頼をし、6月から7月にかけて発行できたらと考えている。また中山健夫先生の連載記事「What's EBM?」の冊子化は来年度に持ち越すことになった。

部員は編集部の仕事をこなしつつ、全員が幹事を兼任している。部員間にもまとまりがあり、これからの近畿病院図書室協議会を背負っていく存在になると感じている。発行ペースの遅れについては、もう少しご辛抱いただきますようお願いしたい。

次年度編集方針として、会員のための協議会機関紙であることを第一義とし、会員の関心をひくテーマを選んだ誌面づくりだけでなく、会員自身にどんどん執筆を依頼して会員のスキルアップに寄与していきたい。

3. 部員

部長：増田 徹（藍野大学）

部員：井上智奈美（三菱京都病院）

寺澤 裕子（関西労災病院）

松尾 知香（石切生喜病院）

若杉 亜矢（松下記念病院）

I-1-3 統計調査部

今年度の年次統計調査は、平成16年度の会員図書館の実情について調査した。

調査項目は「詳細」と「通常」を隔年交互に実施しているが、今年度は通常調査の年に当たっている。現在、データの入力と集計作業中であるが、提出されたデータの中には質問項目に一致しない回答も少なくない。こうしたデータは統計処理上、扱いが悩ましく、統計データとしても一定しないので対策が必要と思われる。また、回答数は調査対象124会員中、72会員（58%）であった。これも統計調査としては貧弱な数字であり、今後の対策を講じる必要があるだろう。

●対象機関と回答数

調査対象：全会員126会員中、124会員に依頼（賛助会員は除外）

回答数：72機関（平成16年度調査では、80機関から回答があった。このうち今年度回答がなかったのは、21会員。また、今年度新たに回答があったのは、13会員）

●調査経過

平成17年12月15日：会員へ調査依頼状発送

平成18年1月15日：データ提出期限

平成18年1月20日：データ入力開始

平成18年2月27日：最終締切り

平成18年3月上旬：データ集計と整理

平成18年3月下旬：会員へ報告書発送（予定）

●データ処理ソフトウェア

FileMaker Pro：データ入力と必要データの加工抽出（宛名ラベル、調査項目）

MS-Excel：データの分析処理（会員データ、調査項目）

MS-Word：依頼文書および報告書の作成

●作業の外注委託化

担当幹事：文書類起案、発送先の宛名ラベルの作成、データの集計整理、報告書の作成

業務委託：依頼状の発送、提出データの入力 (FileMaker Pro)、報告書の発送

●会計

依頼状発送費	9,840円 (80円×123通分)
報告書発送費	17,640円 (140円×126通分)
印刷費	10,040円 (10円×8枚×130部)
業務委託費	28,000円 (800円×8時間×3.5日間)
合計	65,520円

I-1-4 目録編集部

「医学雑誌総合目録 1997年版」改訂版の作成を、平成13年度からの事業として編集作業を開始して以来、実に4年を経過した。平成16年10月ようやくCD-ROM版の完成となり、その後さらに修正を加えて、会員全員への配布は12月となった。

平成17年度の目録編集部においては、前年度の近畿病院図書室協議会「医学雑誌総合目録CD-ROM版2004」の完成に引き続き、Web版の編集作業を開始し、現在、平成18年4月からの正式稼働を目指して作業中である。作業の進

表. 平成17年度統計調査回答機関

11001 羽生総合病院	26008 明治鍼灸大学附属図書館	27051 育和会記念病院
14001 茅ヶ崎徳洲会総合病院	26009 宇治徳洲会病院	28004 兵庫県立塚口病院
14002 神奈川衛生学園専門学校	26010 京都第一赤十字病院	28010 西宮市立中央病院
16001 市立砺波総合病院	26012 洛和会音羽病院	28011 姫路医療センター
16002 富山市立富山市民病院	26015 三菱京都病院	28012 関西労災病院
21002 岐阜社会保険病院	26016 京都民医連中央病院	28014 公立学校共済近畿中央病院
23002 社会保険中京病院	27001 国立病院機構大阪医療センター	28016 神戸労災病院
23006 小牧市民病院	27004 大阪赤十字病院	28017 兵庫県立尼崎病院
23007 名古屋第二赤十字病院	27006 住友病院	28018 神戸市立中央市民病院
23010 名古屋徳洲会総合病院	27008 日生病院	28019 明石市立市民病院
23011 豊橋市民病院	27009 淀川キリスト教病院	28023 神戸市立西市民病院
23012 西尾市民病院	27017 八尾徳洲会総合病院	28024 西神戸医療センター
23013 岡崎市民病院	27019 大阪労災病院	28027 兵庫県立光風病院
23014 刈谷総合病院	27025 愛仁会看護助産専門学校	28031 新須磨病院
24002 松阪中央総合病院	27028 愛染橋病院	28032 兵庫県こころのケアセンター
24003 鈴鹿回生病院	27029 大阪府赤十字血液センター	30002 和歌山生協病院
25001 大津赤十字病院	27030 関西鍼灸大学図書館	32001 島根県立中央病院
25005 市立長浜病院	27035 医真会八尾総合病院	34002 広島赤十字・原爆病院
25006 滋賀医療技術専門学校	27037 大阪警察病院	36001 徳島健生病院
25007 公立甲賀病院	27040 野崎徳洲会病院	38001 松山赤十字病院
26001 国立病院機構京都医療センター	27042 東大阪市立総合病院	38002 松山市民病院
26003 京都第二赤十字病院	27044 市立豊中病院	39001 近森病院
26004 特殊医療法人健康会 京都南病院	27046 コープおおさか病院	40001 福岡徳洲会病院
26005 京都桂病院	27048 多根総合病院	
	27049 医療法人協仁会 小松病院	

■平成16年度統計調査報告 (再集計分)	
統計報告再集計分コピー代	10,400円 (10円×8枚×130部)
統計報告再集計分送料	18,200円 (140円×130通分)
統計報告再集計分宛名シール	840円
送料繰越金 (切手)	420円
合計	29,860円

行状況は、現時点において若干の遅れが予想されている。

平成17年8月および12月の第108回・109回研修会においては、「近畿病院図書室協議会 会員所蔵雑誌目録 Web 版の概要」と題して、株式会社サンメディア 大西氏より、その概要と進行状況についての説明があった。また平成18年3月には、CD-ROM 版にデータ提出がなかった会員とその後の新入会員21機関に対してデータ提出を依頼した。

なお、最初の所蔵データの入力は株式会社サンメディアにてされるが、その後の所蔵データの追加および訂正、削除については各会員機関で行う。データの修正方法については Web 版が完成後、研修会、勉強会にて説明されることとなっている。

#### I-1-5 会員業績 (当協議会内関係での発表は除く)

##### [口演発表]

- (1) 山室真知子 (京都南病院)  
患者の自己学習環境の整備の現状と課題 (基調報告)  
市民への健康情報提供サービス調査研究会議 (和光) 2006.2.24.
- (2) 山室真知子 (京都南病院)  
医学情報をめぐる図書館コラボレーション (シンポジウム)  
第22回全国医学情報サービス研究大会 (名古屋) 2005.7.
- (3) 山室真知子 (京都南病院)  
患者情報室の現状と課題 (シンポジウム)  
公開シンポジウム「これからの医療情報を考える！」(大阪) 2005.12.

##### [誌上発表]

- (1) 小田中徹也 (国立病院機構京都医療センター)  
PubMed活用法 誰にでも使える文献検索術 実践編—治療. EBM ジャーナル 2005 ; 6 (4) : 496-501.

##### [著書]

- (1) 小田中徹也 (国立病院機構京都医療センター) 共著  
科学論文がスラスラ書ける! パソコンのやさしい使い方.  
日本コンピュータサイエンス学会監修. 水島洋, 廣島彰彦編. 東京: 羊土社; 2005.

#### I-2-1 幹事会

今年度は4回の幹事会を開催し、会の運営にあたった。

- 第1回 (2005/04/22) : 国立病院機構京都医療センター
- 第2回 (2005/07/14) : 国立病院機構京都医療センター
- 第3回 (2005/10/14) : 関西労災病院
- 第4回 (2006/01/26) : 国立病院機構京都医療センター

#### I-2-2 役員会

2006年3月3日、京都南病院において平成17年度役員会が開催された。役員会資料 (平成17年度議案書草案) に沿って議事進行し、平成17年度の活動報告、会計報告を審議し、一部語句の修正を加えて了承された。また、平成18年度の活動方針案、事業計画案、予算案についても同様に審議され、追加訂正を加えて総会に諮ることになった。今回の役員会では特に会員の責務・入会資格についての会則改訂に協議を加えたことを付記しておく。

次に、平成18年度会長については清水聡現会長 (京都南病院院長) が再選され、事務局長には林伴子現事務局長 (社会保険神戸中央病院司書) が再選された。会則に則り、それぞれ今年度の第32回総会に諮ることになった。

#### I-2-3 会員の状況

会員数: 126機関 (2006年1月現在)

入会: 2機関

ユサコ株式会社 (大阪: 賛助会員)、

育和会記念病院 (大阪)

退会 : 5 機関

尼崎中央病院 (兵庫)、堺市民病院 (大阪)、和歌山赤十字医療センター (和歌山)、神戸介護保健専門学校 (兵庫)、飯田市民病院 (長野)

I-2-4 対外交流

日本医学図書館協会の第76回総会 (2005/05/19-20) へは、幹事の小田中徹也氏と若杉亜矢氏がオブザーバーとして出席し、役員や会員との交流を図った。また、第88回近畿地区医学図書館協議会例会 (2005/05/11) へは幹事の増田徹氏が出席し、第89回例会 (2005/11/11) へは幹事の松井美抄枝氏が出席した。

平成17年度近畿地区医学図書館協議会 (等) シンポジウムは研修部員の中村雅子氏が実行委員として加わった (2005/11/17開催)。

ライフサイエンス系医学図書館団体連絡会 (仮称) 開催の呼びかけに応じて、幹事の山室真知子氏、若杉亜矢氏が出席した (2005/11/04)。引き続き、健康医療情報サイトなどの作成のための協力員派遣の要請があったため、若杉亜矢氏を当協議会より派遣することにした。

厚生労働省研究費補助金医療技術評価総合研究事業「患者/家族のための良質な保健情報源の評価・統合・提供方法に関する調査研究班」主催の「市民への健康情報提供サービス調査研究班会議」(2006/02/24) の開催にあたって、共催依頼があり了解した。ただし、会員への広報は日時が逼迫していたなどの理由により、ホームページ掲示板への掲載のみに止めた。

議案II. 平成17年度会計・監査報告

(収入の部)

単位 円

予 算		決 算		
費 目	金 額	費 目	金 額	備 考
前年度繰越金	2,242,101	前年度繰越金	2,242,101	
会費	4,160,000	平成17年度	3,540,000	
平成17年度		@30,000×113	3,390,000	
@30,000×127	3,810,000	@50,000×2	100,000	
@50,000×1	50,000	@10,000×2	20,000	
平成16年度未納		平成16年度未納		
@30,000×10	300,000	@30,000×1	30,000	
事業収入	579,100	事業収入	399,500	
会誌購読会費	434,100	会誌購読会費		
平成17年度		平成16年度		
@6,000×3		@6,300×8	50,400	消費税込
@5,700×73		平成17年度		
総合目録未納	145,000	@6,000×2	12,000	
@5,000×29		@5,700×38	216,600	
		総合目録CD-ROM		
		@5,000×5	25,000	
研修会費	115,000	研修会参加費	86,500	第107・108・109回研修会 第20回勉強会
定例研修会				
@2,000×30×1	60,000			
@1,000×30×1	30,000			
事例報告会				
@500×35×1	17,500			
勉強会				
@500×15×1	7,500	書籍販売	9,000	わかる医学用語
その他				
広告掲載料	874,000		144,000	ユサコ、JST ブレインテック、 南江堂
(24巻・25巻)	442,000			
	452,000			
合 計	7,970,201		6,325,601	

(支出の部)

単位 円

予 算		決 算		
費 目	金 額	費 目	金 額	備 考
総会費	110,000	総会費	87,095	
業務委託費	600,000	業務委託費	28,000	
事務費	400,000	事務費	300,684	事務用品 液晶プロジェクター 幹事会開催案内、他
通信費	120,000	通信費	130,510	
交通費	550,000	交通費	96,160	幹事会・編集部会 研修部会、他
事業費	5,500,000		3,381,619	
会誌発行費	3,440,000	会誌発行費	2,585,802	24巻4号・25巻1-3号
別冊発行費	300,000	研修会費	179,897	第107/108/109回研修会 第20回勉強会
研修会費	400,000	目録サポート	276,890	CD-ROM作成費残会 ドメイン更新料
目録サポート	300,000	webワーキング	6,960	
webワーキング	100,000	研究助成	200,000	
研究助成	300,000	統計調査	66,960	報告書作成費、他
統計調査	60,000	その他の事業	65,110	相互利用マニュアル
その他の事業	600,000	対外活動費	213,290	JMLA総会・例会
対外活動費	200,000	資料費	20,916	
資料費	60,000	資料管理費	22,890	
資料管理費	100,000	会誌費	18,553	幹事会・研修部会 ・編集部会
会誌費	150,000	予備費		
予備費	150,000	雑費	30,201	
雑費	30,201	合 計	4,299,717	
合 計	7,970,201			

平成17年度 会計監査

単位 円

収 入	金 額	支 出	金 額
前年度繰越金	2,242,101	総会費	87,095
		業務委託費	28,000
会費	3,540,000	事務費	300,884
		通信費	130,510
事業収入	388,500	交通費	86,160
会誌購読会費	279,000	事業費	3,381,819
		会誌発行費	2,585,802
研修会費	88,500	研修会費	179,897
		目録サポート	278,890
総合目録CD-ROM	25,000	webワーキング	6,980
書籍販売	9,000	研究助成	200,000
		統計調査	66,860
		その他の事業費	65,110
広告掲載料	144,000	対外活動費	213,280
		資料費	20,916
		資料管理費	22,890
		会議費	18,553
		雑費	0
		翌年度繰越金	2,025,884
合 計	6,325,601	合 計	6,325,601

上記決算については、会計監査を終了しました。

平成18年3月15日

田中 友忠 (印)  
福田 春織 (印)

議案Ⅲ. 平成18年度活動方針

昨年度総会でもふれたように、病院図書館を取り巻く状況の厳しさに変わりはない。その一方、ネットワークの重要性も病院機能評価受審などを機会に見直されてきている。また、一般への医学医療情報の提供も病院図書館のサービスとして認識されつつある。

今年度は当協議会研修会だけでなく、ネットワーク、医学情報の提供、患者図書室などをテーマとした研修会が数多く開催された。地域への開かれた図書館、患者への医学医療情報の提供など、医療情報を担うエキスパートを養成することは医療の質の保証へもつながり、図書

館員のスキルアップは急務といえよう。専門知識の習得には従来取り組んできたが、今後この方針に沿って活動を進めていくことが期待されていると考える。

さて、今年度は新幹事1名を迎えたが、事業を分担するには十分でなく、新しい取り組みや事業の見直しはなかなかできなかった。幹事については従来候補制をとっているが、事業の継続、発展のためには今以上に必要としている。円滑な協議会運営のためには会員の協力が不可欠であるが、幹事、各部門ともなかなか人員が集まらないのが現状である。今年度、会員(担当者・管理者)へ協議会運営についてアンケート調査を行うことにしていたが、実現にはいたらなかった。来年度は実施する予定であるので、これを機会に今一度、会員の責務を考えていただき、さらなる協力をお願いしたい。

昨年度総会の活動方針案にあげたように、機関加盟であることを生かし、一部会員への負担を減らす試みとして、任期制、当番制、地区代表制など、検討を重ね可能性を探っていきたい。

今年度は総合目録のWeb版に着手した。来年度に正式稼働開始となれば、所蔵情報の入手方法が今以上に簡便になるであろう。ネットワークの利点を十分に生かすためには、会員からの情報提供が不可欠である。ようやく立ち上がった所蔵データベースをどう育てていくかが課題といえよう。

今年度より研究助成金制度を開始したが、年10万円、3年の更新を可として来年度も新規・継続の研究助成金の申請を募集する。

以上を総括して、来年度の当協議会活動では必要な継続事業を進めつつ、新たな事業・目標を模索し、対外的にも広く協力活動を行い、運営・事業活動については新旧世代の交代を円滑に図っていくことを課題とする。

議案Ⅳ. 平成18年度事業計画

1. 医学文献情報活動

- 医学雑誌現行情報の収集と目録のメンテナンス

2. 教育研修活動

- 研修会（セミナー形式）・勉強会の開催
- 関連団体の研究研修会への案内と参加奨励
- 研究助成金制度の継続

3. 出版広報活動

- 会誌「病院図書館」の季刊発行
- ホームページの継続と内容更新

4. 年次統計等の調査活動

- 年次統計と相互貸借の調査

5. 対外活動

- 関連団体との交流・連携

議案Ⅴ. 平成18年度予算

(収入の部)

(支出の部)

単位 円

費目	金額	費目	金額	摘要
前年度繰越金	2,025,884	総会費	150,000	選挙費用、議案書作成費用、特別講師謝礼・交通費
会費	4,420,000	業務委託費	400,000	会費請求、他
平成18年度 @30,000×124	3,720,000	事務費	150,000	事務用品、銀行手数料他
@50,000×2	100,000	通信費	150,000	事務局・各部会連絡
平成16・17年 度未納 @30,000×20	600,000	交通費	200,000	会員通知他
事業収入	781,900	事業費	5,860,000	役員会、幹事会、各部会、JMLA近畿地区例会、他
会誌購読会費 平成18年度 @6,000×76 未納	456,000	会誌発行費	3,900,000	会誌25(4)26(1-4)発行費
@5,700×37	210,900	別冊発行費	300,000	別冊 (What's EBM?)
総合目録未納	115,000	研修会費	400,000	定例研修会、事例報告会、勉強会
研修会費	115,000	目録サポート	400,000	総合目録web版
定例研修会 @2,000×30×1	600,000	webワーキング	100,000	活動経費
@1,000×30×1	300,000	研究奨励	400,000	
事例報告会 @500×35×1	17,500	統計調査	60,000	2005年度報告書作成・送料
勉強会 @500×15×1	7,500	その他の事業	300,000	2006年度調査報告経費
その他		対外活動費	300,000	JMLA総会派遣費、他
広告掲載料 25巻	333,000	資料費	60,000	雑誌購読料、他
		資料管理費	70,000	病図協所蔵資料
		会議費	150,000	会場使用料
		予備費	150,000	
		雑費	35,784	庶務費、接遇費
合計	7,675,784	合計	7,675,784	